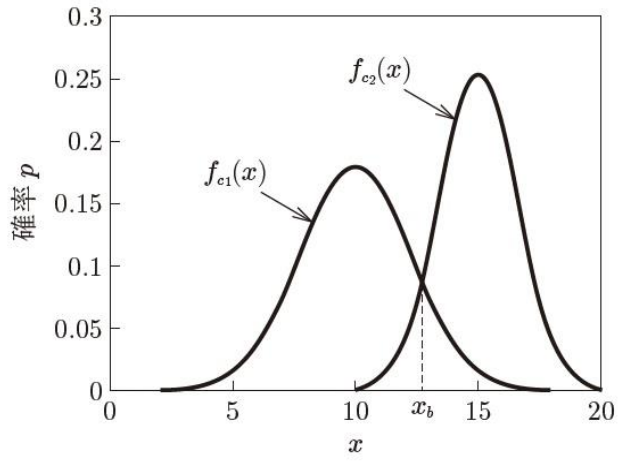
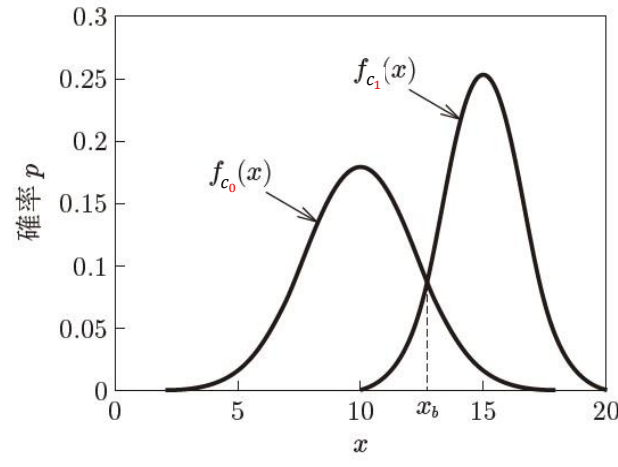
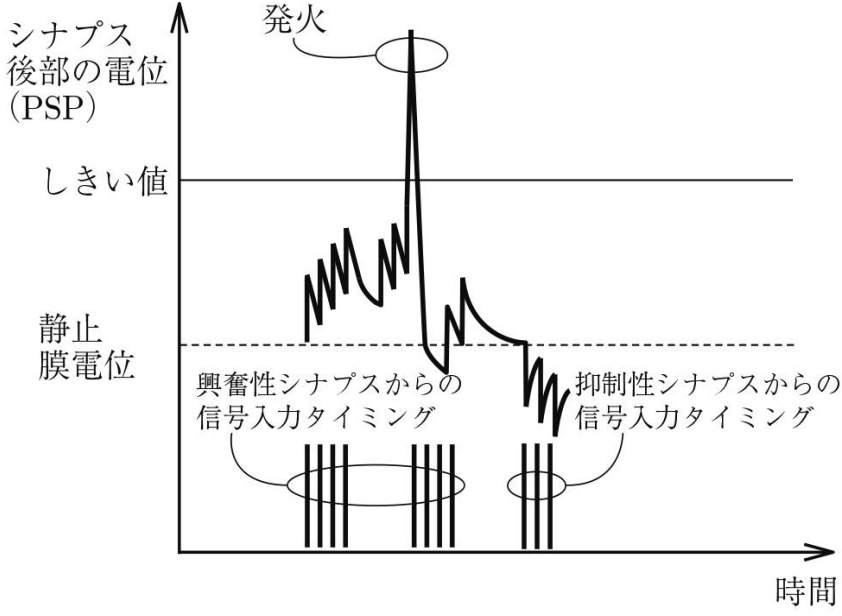
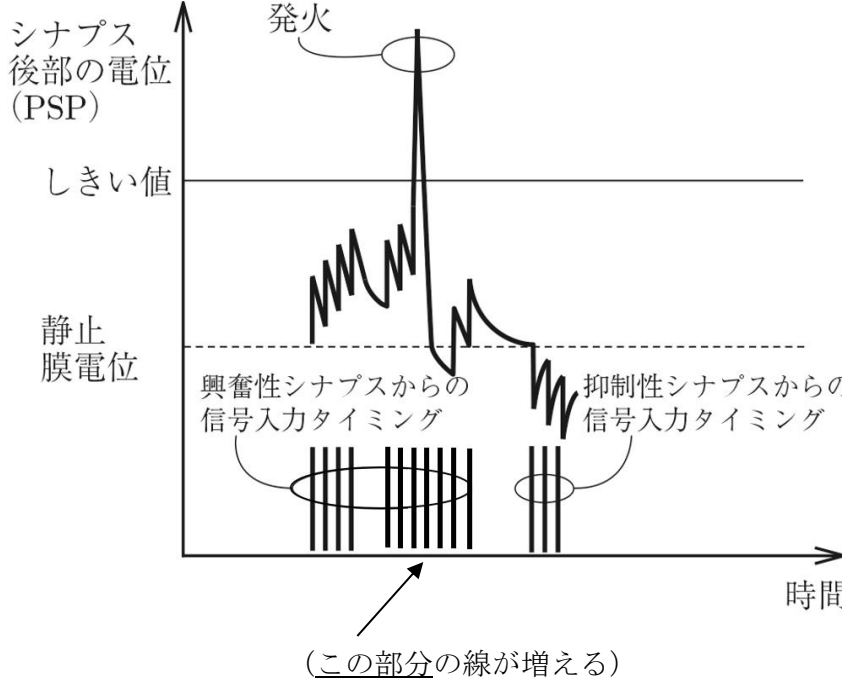


ページ	箇所	誤	正
	下から10行目	…位置においてクラス1 (c_1 で表す)	…位置においてクラス0 (c_0 で表す)
	下から8~5行目	…密度関数 $f_{c_1}(x)$ であり、もう一つはクラス2 (c_2 で表す) のパターンが出現する確率密度関数 $f_{c_2}(x)$ である。	…密度関数 $f_{c_0}(x)$ であり、もう一つはクラス1 (c_1 で表す) のパターンが出現する確率密度関数 $f_{c_1}(x)$ である。
	式(2.6)	$f_{c_1}(x_b) = f_{c_2}(x_b)$ (2.6)	$f_{c_0}(x_b) = f_{c_1}(x_b)$ (2.6)
14	図2.4	 <p>図 2.4 二つのクラスの分布の例</p>	 <p>図 2.4 二つのクラスの分布の例 (図中のc_1をc_0, c_2をc_1にする)</p>
15	上から3~4行目	…クラス1, $x \geq x_b$ となる x に対してはクラス2と判別される。ただし, $x < x_b$ となる x に対して $f_{c_2}(x) > 0$ …	…クラス0, $x \geq x_b$ となる x に対してはクラス1と判別される。ただし, $x < x_b$ となる x に対して $f_{c_1}(x) > 0$ …
16	上から1行目	…同様で, $f_{c_1}(x) > 0$ となる…	…同様で, $f_{c_0}(x) > 0$ となる…
20	下から11行目	…図3.1に人間のニュー…	…図3.1に 霊長類 のニュー…
	図3.1タイトル	人間のニューロン…	霊長類 のニューロン…
21	図3.2		 <p>(この部分の線が増える)</p>
26	ソースコード3.3 15行目と16行目の間		<p>(以下7行(空白含む)を追加。それにより行番号がずれ、例えば最終行は18→25となる。ダウンロード用ソースコードは修正済)</p> <pre> 16 def learning(self, templeteX, labelY): 17 self.w = copy.deepcopy(templeteX) 18 normW = np.linalg.norm(templeteX, 2) 19 self.w.append(-0.5 * normW*normW)#bias element 20 self.label = copy.deepcopy(labelY) 21 print("Neuron.learning() self.w=%s, label=%s" %(self.w, self.label)) 22 </pre>
30	上から5行目	…つぎに, 活性化関数として…	…つぎに, 微分可能な 活性化関数として…
35	ソースコード3.7 9行目	<code>self.units.add(neuron)</code>	<code>self.units.append(neuron)</code>
49	上から5行目~	…自動的に用意される。さらに…	…自動的に用意される。 ただし引数の意味は nn.Linear(入力サイズ, 出力サイズ)である。 さらに…
96	図4.6 最上部	全結合層 2 100	全結合層 250
97	表4.2 最下行, 「サイズ」列	100 × 100	100 × 50